

第 14 節 整形外科研修 ※プログラムBでは必修

一般目標

- ① 救急医療:外科系のどの科に進もうとも、外科系当直中に、運動器の救急疾患を怖がらずに受け入れ、初期対応ができるようになる。
- ② 基本手技:運動器疾患の診療に必要な基本的手技を習得する。
- ③ 医療記録:運動器疾患についての医療記録を適切に記載できる。

具体的目標

1. 救急医療

- ① 救急外来を受診、もしくは救急搬送された、運動器疾患患者の病歴・身体所見を適切に取り、画像検査のオーダーを適切に行うことができる。
- ② 神経学的診察によって、麻痺の有無や高位を判断できる。
- ③ レントゲンや CT にて、骨折や脱臼の有無を判断できる。
- ④ 整形外科医にすぐにコンサルトすべきかどうか判断できる。
- ⑤ 患者を次回の整形外科外来に適切に誘導することができる。

2. 基本手技

- ① 身体所見(変形の有無、自動・他動での関節可動域、圧痛の部位、神経・血管・筋腱損傷の有無、関節腫脹の有無、神経学的診察)を適切にとることができる。
- ② 副子・ギブスシーネによる固定を適切に行うことができる。
- ③ 診断のための関節穿刺を行うことができる。
- ④ 皮膚縫合を行うことができる。
- ⑤ 頸椎カラー・腰痛ベルト・クラビクルバンド・バストバンドなどによる固定を適切に行うことができる。
- ⑥ 整形外科手術において、上級医の指導のもと、助手を務めることができる。

3. 医療記録

- ① 病歴・身体所見・問題点を適切に記載できる。
- ② 症状の経過を適切に記載できる。
- ③ 運動器疾患に関する診断書の種類と内容を理解できる。

実臨床研修

- ① 救急患者の診察に参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容・治療方針などについて指導医・上級医と討論、確認を受ける。
- ② 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容・治療方針などについて指導医・上級医と討論、確認を受ける。

- ③ 毎日の回診・申し送りにおいて、入院担当患者について問題点を提示し、指導医・上級医と検討を行う。
- ④ 病棟カンファレンスにおいて、症例を提示し、他職種とのディスカッションを行う。
- ⑤ 学会や研究会での発表を行う。

研修評価

- ① 指導医・上級医との討論において症例の理解度の評価
- ② 入院患者の退院サマリーでの理解度の評価
- ③ 病院の共通の評価記録での総合的評価

■週間スケジュール 整形外科

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	クリニカルボード 手術 救急対応	術前カンファレンス 手術 救急対応	手術 救急対応	抄読会 手術 救急対応	手術 救急対応		
午後	手術 救急対応	手術 救急対応	手術 救急対応 病棟カンファレンス	手術 救急対応 検査	手術 救急対応 検査		

第 18 節 整形外科研修〔選択科向け研修〕

一般目標

- ① 救急医療: 運動器の救急疾患に対して適切に初期治療を行うことができる。
- ② 基本手技: 運動器疾患の診療に必要な基本的手技を習得する。
- ③ 脊椎・骨関節疾患: 基本的な診断と治療方針を立てることができる。
- ④ 医療記録: 運動器疾患についての医療記録を適切に記載できる。

具体的目標

1. 救急医療

- ① 救急外来を受診、もしくは救急搬送された、運動器疾患患者の病歴・身体所見を適切に取り、画像検査のオーダーを適切に行うことができる。
- ② 神経学的診察によって、麻痺の有無や高位を判断できる。
- ③ レントゲンや CT にて、骨折や脱臼の有無を診断し、上級医の指導のもと、徒手整復・ギプス固定などの初期治療を行うことができる。
- ④ 捻挫・靭帯損傷の診断とシーネ固定などの基本的な初期治療を行うことができる。

2. 基本手技

- ① 身体所見(変形の有無、自動・他動での関節可動域、圧痛の部位、神経・血管・筋腱損傷の有無、関節腫脹の有無、神経学的診察)を適切にとることができる。
- ② 副子・ギプスシーネによる固定を適切に行うことができる。
- ③ 診断のための関節穿刺、治療のための関節注射を行うことができる。
- ④ 筋膜縫合・皮膚縫合を行うことができる。
- ⑤ 頸椎カラー・腰痛ベルト・クラビクルバンド・バストバンドなどによる固定を適切に行うことができる。
- ⑥ 整形外科手術において、適切に助手を務めることができる。
- ⑦ 上級医の指導のもと、抜釘・観血的整復内固定術などの基本的手術を術者として行うことができる。

3. 脊椎・骨関節疾患

- ① 変形性関節症・関節リウマチ・脊椎変性疾患について、X 線・CT・MRI 上の所見を理解できる。
- ② 変形性関節症・脊椎変性疾患の診断を行い、基本的な治療方針を立てることができる。
- ③ 骨粗鬆症の診断を行い、基本的な治療方針を立てることができる。
- ④ 理学療法・作業療法を適切に処方することができる。

4. 医療記録

- ① 病歴・身体所見・問題点を適切に記載できる。

- ② 症状の経過を適切に記載できる。
- ③ 運動器疾患に関する診断書の種類と内容を理解できる。

実臨床研修

- ① 救急患者の診察に参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容・治療方針などについて指導医・上級医と討論、確認を受ける。
- ② 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容・治療方針などについて指導医・上級医と討論、確認を受ける。
- ③ 毎日の回診・申し送りにおいて、入院担当患者について問題点を提示し、指導医・上級医と検討を行う。
- ④ 病棟カンファレンスにおいて、症例を提示し、他職種とのディスカッションを行う。
- ⑤ 学会や研究会での発表を行う。

研修評価

- ① 指導医・上級医との討論において症例の理解度の評価
- ② 入院患者の退院サマリーでの理解度の評価
- ③ 病院の共通の評価記録での総合的評価

■週間スケジュール 整形外科

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	クリニカルボード 手術 外来	術前カンファレンス 手術 外来	手術 外来	抄読会 手術 外来	手術 外来		
午後	手術 救急対応	手術 救急対応	手術 救急対応 病棟カンファレンス	手術 救急対応 検査	手術 救急対応 検査		